

| | | | | |
|--|--|---------|----|------|
| 科目名 | コーポレートファイナンス I Corporate Finance I | | 選択 | 2 単位 |
| 学期・曜日・時限 | 秋・火・3 限 | 秋・火・6 限 | - | - |
| 担当教員名 | 唐木 宏一 | e-mail | | |
| 講義形式 | ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施） ※対面履修生は全回講義室から参加 | | | |
| <p><講義の概要と目的></p> <p>コーポレートファイナンスの取り扱う題材は、非常に多岐にわたっている。また、その主要な部分では一定の数学的素養が求められることもあり、多くの学生にとってはとっつきにくい学問と認識されがちではないか。そこで本講義では、「基礎科目としてのコーポレートファイナンス」として、「企業の CFO が考慮すべきファイナンスの諸テーマ」について、それらの概略と考え方について学んでいく。とりあげる主題については、下記講義計画で予定する以外のものについても、受講生からの提案要望があれば応じる。アントレプレナーファイナンスと比較すると投資家の立場寄りの講義である。</p> <p><到達目標></p> <p>本講義の目的は「ファイナンス」の考え方を理解し、企業実務や生活の場において適切に応用できるようにすることである。そのため、主要な用語の概念定義とそれらの道具としての使い方については、的確に理解し習得することを求めるが、必要に応じて書籍等で調べれば足りるため、ごく少数のものを除き、「公式」等の丸暗記や算式の完璧な理解は求めない。ところでこの目的の達成は、講義を一方的に聴くことのみでは困難である。前提となる予習復習に加えて、受講者諸君の質問や意見の開陳など積極的な参加が求められる。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>毎回講義の冒頭で当日テーマにかかる質疑応答と議論の時間を設けるほか、ケースについて、受講者同士の（グループ）ディスカッションを、2 回目（確定）以外にもできるだけ実施したい。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>機関投資家実務経験者による講義（オンライン実施見込み）を予定（12～14 回目のどれかで昼夜とも開講の予定）。積極的に質問すること。</p> <p><講義計画></p> <p>1 回目：イントロダクション/コーポレートファイナンスの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：企業価値、ファイナンスの意味と、それらを学ぶ意味の確認 <p>2 回目：企業 CFO の仕事から考える MBA 講義で学ぶべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：事前課題を読み議論。コーポレートファイナンスにおいて「何を学ぶのか」の明確化 <p>3 回目：企業価値とその指標（マルチプル等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：企業価値の考え方の概説、簡易的計算手法としての PER 等のマルチプルについて <p>4 回目：現在価値と投資判断の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：NPV（正味現在価値）の考え方と計算、IRR（内部収益率）他手法の利用について <p>5 回目：資本コスト、割引率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：株主資本コスト、WACC（加重平均資本コスト）の考え方。MM 理論の現実ほか <p>6 回目：効率的ポートフォリオ、資本市場線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：リスク、分散投資、安全資産利子率、効率的ポートフォリオ、資本市場線等の考え方と算出 | | | | |

7 回目：証券市場線、CAPM

・要点：証券市場線、ベータ、マーケット・リスク（・プレミアム）、CAPM等の考え方と算出

8 回目：リスクとヘッジ

・要点：リスクヘッジの手法と付随する問題について

9 回目：株式配当と自社株取得（と償却）

・要点：配当と企業価値、配当と税金、適切な配当水準、自社株取得のケースについて

10 回目：M&Aと企業価値評価

・要点：ファイナンスの学びを実践しうるケースとしてのM&Aとそれに付帯するテーマについて

11 回目：「ダブルコード」とESG経営

・要点：10年代以降わが国でも導入された2つの「コード」の経営に対して有する意味の検討ほか

12 回目：ESG投資

・要点：ゲスト講師による講演・・・機関投資家の実際の活動、ESG投資について

13 回目：ESG評価、インパクト評価とIR

・要点：ESG評価の現状とその課題、今後の改善の方向性や企業の取組み等について

14 回目：FINTECH

・要点：FINTECHの背景とロジック、サービスの提供者と利用者双方の視点で考察、議論

15 回目：総括

・要点：全体のレビューと意見交換

<講義の進め方>

配布資料（PPTやPDF）を足がかりとして実務への応用や、関連する今日的な話題について講義をおこなうほか、人数構成等の面で可能であれば、チームを構築しチームでの討議とそのクラスへの報告を織り交ぜる。時間中の学生からの質問、意見はいつでも受け付ける。

※疑問はあとで質問しようとせず、その場で尋ねること。

<事前事後学修内容>

詳しくは講義にて指示するが、事前に Teams 等にアップし配布する講義資料（講師作成の PPT や、書籍論文等の抜粋 PDF 等）を必ず1回は読んだうえで（精読までは求めない）、当日のテーマについて事前に疑問点等を明確にしておくこと。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

<教科書及び教材>

『金融機能による社会的課題の解決』岩坂、唐木著、白桃書房、2020年 ※大学図書館に蔵書あり
ほか、必要に応じ講義の Teams 等を通じ配布する。

<参考書>

『日本のエクイティファイナンス』鈴木健嗣著、中央経済社、2017年

『コーポレート・ファイナンス 第10版 上』ブリーリー、マイヤーズ、アレン著 藤井、國枝監訳、日経BP社、2014年（第8版でも可）

『コーポレートファイナンス入門-企業価値向上の仕組み』野間幹晴、本多俊毅著、共立出版、2005年

『企業価値評価（上・下）』マッキンゼー・アンド・カンパニー著、ダイヤモンド社、2022年

『ESG 投資』水口剛著、日本経済新聞出版社、2017 年
『サステナブル経営と資本市場』北川、佐藤、松田、加藤著、日本経済新聞出版社、2019 年
ほか、必要に応じ指示する。

<成績評価方法>

レポート（期中 3 回程度実施の予定）、講義への参加（討議への貢献度等）の割合を 7 : 3 の比率にて評価する。欠席 6 回以上は成績評価しない。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

レポート受付時にコメントを返信予定。ほか、全体については講義の Teams 等にて逐次実施予定。
※早めに提出されたレポートには、必要に応じて添削を実施予定。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

基礎知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

火曜 5 限。まず e-mail で連絡すること。左記指定時間以外でも時間を確保することがある。

<その他>

レポートや講義でエクセルを使用する（6-7 回目講義では散布図・近似直線なども予定）。